

分野を特定せず、さまざまな問題
 について考察し、議論を深めな
 がら物事の捉え方や社会を見る『方
 法』の習得を目指しています」と、
 ゼミの活動概要を紹介するのは陳黄
 さん。留学生として入学後、努力し
 て語学の壁を克服。議論に積極的に
 参加し、文献の読解力も深めていま
 す。「主張の根拠を求めながら、客
 観性を持って語り合うことで、立場
 が違っても理解し合えることを学び
 ました」と、自身の成長を喜びます。

ゼミ活動の中心は、文献の講読と
 意見交換です。最初に文献の要約を
 紹介する発表者は当日指名なので、
 授業では常に全員が発表資料を作成
 して備えます。「少人数のグループに
 分かれて討論するので、必ず発言の
 機会があります。自分の考えを伝え
 きれいなと感じることもあるので、
 先輩たちを見習いながら発言力を
 鍛えていきたい」と語る田口さん。

向学心を持って議論に取り組むこと
 で力を蓄え、自身の社会学的思考に
 磨きをかけています。

堀川ゼミでは、「裏付け」に基づい
 て論じること、自分を諦めずに自己
 ベストの更新を目指すことを重んじ
 ています。「本当に探求したいことは
 何か。とことん自問し、腹の底からテ
 ーマを選んでほしい」と語る堀川教
 授。その思いに応えるように、山室さ

社会学部社会学科 堀川三郎教授ゼミ



“Say it with data.”
 ——社会問題の
 現場を歩き、足で考える

ゼミナール・研究室

上段左から、堀川三郎教授、山室友希さん（社会学科4年）、陳黄作明さん（社会学科4年）、下段左から、森田遼太さん（社会学科4年）、田口智尋さん（社会学科3年）、藤原有希さん（メディア社会学科3年）

※今回はオンラインで取材しています



ゼミは堀川教授の研究室にて、本に囲まれながらじっくりと議論を重ねている（現在はウェブ会議にて開催）



毎年恒例のBBQパーティー(写真は2019年)。時間をかけて作った料理を囲み、親睦を深め合う



卒論公開口頭試問の後はフレンチ・レストランでの本格的なディナー。ゼミ修了証を手に笑顔もほころぶ(写真は2019年)

卒業後は公務員として行政に関わ
 ることを決めた森田さん。「堀川ゼミ
 での活動を通じて、自分の中に芽生
 えた問いと真剣に向き合い、答えを
 求めていくにはどうしたらいいか、
 問題解決の姿勢が身に付きました。
 先生の親身な指導のおかげです。こ
 れからは、さらに視野を広げ、社会全
 体の問いを探求していきたい」と力
 強く語ります。

夏のゼミ合宿も、2020年度は
 ウェブ会議ツールを利用してオンラ
 インで開催。「事前に文献の講読や要
 約のまとめを準備しておき、議論に
 臨むという流れは、例年の合宿と同
 じです。画面越しですが、3日間じつ
 くり議論することができました」と
 振り返るのは藤原さん。自身の研究
 では、住宅街の景観の画一化に関す
 る考察を始めています。現場を歩い
 て、足で考えるのが堀川ゼミの信条
 なので、これからは現地調査にも出
 掛け、実例を集めながら考えを深め
 ていきたい」と先を見据えます。

んが選んだ卒論のテーマは「自分ら
 しさ」。「自分らしさ」とはどういう
 ことか、どのように形成されるのか、
 それを求めてしまうのはなぜか。そ
 うした問いの答えを追いかけていま
 す。社会学に加えて、哲学や心理学も
 視野に含め、学問の境界をまたいで
 取り組んでいます」。

